

2024年 JICA 調査団派遣

# 活動報告書

ニカラグア共和国・ドミニカ共和国  
環境×防災ミッションについて

AnBee株式会社

和泉 崇司 / SOHJI IZUMI

# はじめに

## 調査団としてのミッション

### Artist in Project × 環境KIDSエキスパート

昨年実施した環境KIDSエキスパート事業を経て、子どもが持つ創造力、発信力、共感力を活用することで、国際協力の世界に貢献することが出来ることを参加者・運営チーム一同が確信しました。

本年度の実施に向けて、昨年よりも更に子どもたちがリアルに世界の開発課題の現状に触れ、理解することができるよう、講師陣が現地の「今」を調査することを目的に本派遣を決めていただきました。

また、「より共感を得られるコンテンツ」創りを通じて、魅力的な開発の実現を目指して行われているArtist in Projectの一環として、ニカラグア・ドミニカ共和国両国の防災についてArtist本人が学び、また日本の防災について紹介する目的も含まれています。





# ニカラグア共和国での活動

---

防災とコミュニケーションについて

# 訪問させていただいた場所（ニカラグア共和国）

---

- Universidad Americana (UAM)
- SINAPRED
- TV Stations (Channel 2 & Channel 13)
- Parque La Amistad japon-Nicaragua
- National Cinematique

## Universidad Americana (アメリカン大学)



アメリカン大学において「身近なモノを活用したFirst Aid」についてワークショップを開催させていただきました。

万が一の災害や事故が発生した際に、病院レベルの資機材が揃っているとは限りません。頭を柔軟に働かせ、その時々で最善の判断を行う必要があることをお伝えさせていただきました。

自らの命や安全が守られてこそ、他を守ることができる。  
正しい知識と経験を有しているからこそ、人を救うことができる。

身近にある日用品を活用することで、自らの安全を確保しながら傷病者処置が出来る方法についてデモンストレーションを交えながら学生の皆さんと一緒に学ぶことができました。

夏休み中にも関わらず沢山の学生さんが参加くださり、沢山の質問や意見も伺うことができ、大変活気溢れる会となりました。

このワークショップを通して、一人でも多くの方に「命を守る」重要性についてご理解いただけたなら幸いです。



## SINAPRED（ニカラグア国家災害管理・防災システム局）



SINAPRED（ニカラグア国家災害管理・防災システム局）にお邪魔させていただきました、ニカラグアでの防災の取組みについて伺わせていただきました。

現政権が積極的に防災に取り組んでいるということもあり、毎年4回全国的な防災訓練が行われており、その内容も具体的な災害を想定し、リアルなシナリオを作成して行われているとのことでした。全国の災害状況を一元管理し、危機に対して積極的に備えを行っている姿が大変印象的でした。

SINAPREDという存在が、ニカラグアに住む方々にとって大きな存在であること、また災害発生時には機動的かつ迅速な復旧活動に当たることができることについて大変感銘を受けました。

日本の防災についてもシェアをさせていただき、両国の防災に対する類似点や相違点が明確になり、継続的なコミュニケーションを通してさらなる発展に寄与出来たらと考えております。

次回は全国防災訓練に是非参加させていただきたいと願っています。

## Workshop with Local Government



マナグア地区の複数エリアから防災担当者の皆さまにお集まりいただき、各地での防災の取組みや現状について教えていただきました。

ニカラグアの地域特性やSINAPREDによる防災訓練の様子、子どもたちへの防災教育の取組みやJICA主導で行ったマスコットを活用した啓蒙活動についてもプレゼンテーションをいただきました。

それぞれのエリアが市民の安全を守るために必死に活動されており、また各地が連携してマナグア全体の安全を守り抜くという誇りと覚悟を拝見することができました。

都市計画やインフラ整備、市民への情報共有については課題を残す中、出来ることをコツコツとやっていらっしゃる印象を受けました。



日本での取組みや活動についてもプレゼンテーションさせていただき、特に「防災をボランティアで終わらせない」ということについて沢山のご質問もいただき、日本の防災はニカラグアにも適応できると実感いたしました。

今後も日本での活動を継続的にご報告し、ニカラグアに寄与できるよう努力したいと考えております。

## National Cinematique (ニカラグア国立劇場)



ニカラグア国立劇場において演技とコミュニケーションについてのワークショップを開催させていただきました。

国立劇場には沢山の報道機関や学生の皆さん、映画や演劇に興味をお持ちの皆さんにお集まりいただき、大変活気に溢れ、ニカラグアでの演劇に対する関心度の高さを実感いたしました。

正しい情報を相手に届けるためのコミュニケーションテクニック、メディアが持つ影響力とその正しい使い方、お芝居の技術や身体の使い方について約2時間みっちり講演させていただきました、交流を深めさせていただきました。

講演後には沢山のご質問をいただき、ニカラグアでの映画や演劇に対する渴望感を体感すると同時に、演劇が言語や文化を超えて共有できることについて改めて感動を覚えました。ニカラグアでの機会提供はもちろん、日本から何らかの形で文化を輸出することが出来れば、ニカラグアの文化発展にも寄与できるのではないかと考えています。

またの機会をいただき、是非とも現地の方々とは共同プロジェクトを創出したいと強く願うばかりです。





# ニカラグア共和国でのテレビ出演

---

メディアを活用した情報伝達

## Channel 2 & 13



ニカラグア国営放送「Channel 2 と 13」に生出演させていただきました。

普段からテレビの生放送には慣れていますが、海外でのテレビ出演は初！スタジオの雰囲気や設備、放送方法も日本とは異なり、驚きの連続でした。

まず驚いたことは、出演者の皆さんのトーク力の高さ。台本一切なし、直前の打ち合わせのみで完璧な番組進行をされ、少人数のスタッフさんと限られた機材で素晴らしい番組制作をされていました。私の話にも熱心に耳を傾けてくださり、日本についても興味を持って下さったお陰で、終始和やかな放送となりました。

1つのスタジオ内に複数のセットを配置し、コーナーごとにカメラを切り替えながら演出を行なっている点においては日本と変わらない一方で、「ライブ感」については圧倒的にニカラグアが強く、スタッフ・出演者が一丸となって番組制作を行なっている現場に感銘を受けました。

番組内ではArtist in Projectについて、防災の取組みやニカラグアでの活動についてお話をさせていただき、大変貴重な経験となりました。通訳に入って下さった小谷所長に心から御礼を申し上げます。



# ニカラグア共和国について

---

2日間の滞在を通して感じたこと・・・

## 街並みと風景



馬が車やバイクに混ざって道路を闊歩し、空が高く、どこか落ち着く雰囲気でもて迎えてくれたニカラグア。鳥の囀りをかき消すように鳴り響くクラクションもどこか新鮮で、中南米に来た！という感覚がありました。

街中には現政権を象徴するような木を形どったモニュメントが立ち並び、夜はライトアップされている。青い空の下、歴史的な建物と近代的な建物が入り混じり、自然豊かな様子が伺えました。

地球の裏側、ニカラグアにおいて感じた「日本」は、先人たちが築いてきた信頼と誇りの結晶であると思います。JICAの協力で建設されている瓦造りの建物や日本庭園は、正に日本人としての誇りを感じさせてくれました。

こんなに離れていても、日本を感じ、日本を思い出せる場所があるということに心から感謝申し上げるとともに、我々日本人の行動ひとつひとつに大きな責任があることを改めて感じることができました。



## ニカラグアの食事



怒涛の2日間。

その間にいただいたニカラグアの食事はどれも美味！  
定番とされている焼きチーズと蒸したバナナ、お米と豆は  
正しく中南米を象徴する料理として楽しみました。

そして何より、ニカラグア牛！！  
赤身の旨味が凝縮され、量を食べても全く重たくない。  
ペロリといただける上質なお肉に感動いたしました。  
これは日本にも伝えていきたいと思います。

短い滞在の中で、食事を通して文化を感じられたことに感謝。





旅の締めくくりとして、在ニカラグア日本国大使館を訪問させていただき、中村大使と面談させていただきました。ニカラグアでの活動のご報告と、未来に向けたお話もさせていただき、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。来年には外交90周年を迎えるとのこと、今後も是非ご縁をいただけるようお願いいたしました。

そして何より、本滞在を準備期間も含めて支えて下さったJICAニカラグアの皆さまに心からの尊敬と感謝を申し上げます。皆さまのお力添え無くして成立出来なかったと思います。本当にありがとうございました。



# ドミニカ共和国での活動

---

防災と教育の重要性

# 訪問させていただいた場所（ドミニカ共和国）

---

- ONESVIE（Oficina Nacional de Evaluación Sísmica y Vulnerabilidad de Infraestructura y Edificaciones）
- Defensa Civil Dominicana
- MIVED（Ministerio de Vivienda y Edificaciones）
- CIRRMA（Centro de Investigación de Resiliencia y Riesgos Multi-Amenaza de la Pontificial Universidad Católica Madre y Maestra）
- Ministry of Education
- INTEC（Instituto Tecnológico de Santo Domingo）
- Duquesa Landfill
- Juan Dolio
- Hiroshima Toyo Carp Academy
- President of ASONAJA（Nikkei）
- Ministry of Education / Infrastructure
- Embassy of JAPAN
- Instituto Politécnico Loyola

# 前提として

## ドミニカ共和国の耐震構造や防災プロジェクトについて

### ドミニカ共和国向け国別研修

本件派遣のアジェンダとして、ドミニカ共和国の各省庁が制定している建物に対する耐震基準や法整備についての議論が多かったが、個人的な知見が不足していたため、JICAおよび株式会社オリエンタルコンサルツグローバル様がまとめた下記資料を参考にしました。

#### ドミニカ共和国向け国別研修「建築物耐震性診断能力強化」の実施に向けた情報収集・整理業務 業務完了報告書

本資料にまとめられているドミニカ共和国の災害リスクやそれに伴う建物の耐震基準に関する調査データ、改善に向けた提案等を参考のうえ各ミーティングに参加しました。

ドミニカ共和国向け国別研修  
「建築物耐震性診断能力強化」の実施に向けた  
情報収集・整理業務

業務完了報告書

2022年3月

独立行政法人  
国際協力機構（JICA）

株式会社 オリエンタルコンサルタンツグローバル

環境
JR
22-064

# ドミニカ共和国の防災

防災と教育の重要性

## ONESVIE（国立地質・インフラ・建造物耐久調査局）



インフラ整備・建築物耐震・脆弱性評価を行なっているONESVIE。省庁によって管轄する建築物が違い、其々基準も異なります。

特に若年層に対して正しい防災教育を行うことを急務とされており、既に教育パッケージとしての冊子作成に着手されていました。

イラストや図解を多く挿入し、子どもでも理解できる防災教育プログラムを検討されていました。

教育パッケージの構築にはアドバイスも欲しいと言っていたいただき、継続的なコミュニケーションを実施したいと願っています。

## Defensa Civil Dominicana



ドミニカ共和国 市民防衛局

気象や地震等災害リスクの監視システムの整備を行う選ばれた市民参加型の防衛機関であり、国民から信頼と尊敬を集めている存在です。

新しいwebシステムやアプリケーションの開発にも取り組み、災害発生時に市民からの情報を吸い上げられるシステム構築にもチャレンジしています。

日本から寄贈された機材一式と車輛を誇りとして大切に取り扱い、ドミニカ共和国と日本の友好関係が伺えます。

## MIVED（住宅・居住・建物省）



2021年に新設された、居住環境や建築物の建設に係る政策・戦略を立案し推進する機関であり、一般住宅等建築物について管理している省庁です。

一番印象的だったのは「何か大きなことが起こるまでドミニカ共和国の人たちは防災を理解できないかもしれない」という担当者の言葉でした。沢山の政策やルールの制定を行っていても、全体の理解を得られない現状において、「やらなければならないが出来ない」ジレンマを抱えていると感じました。

## CIRRMA（PUCMM）



地震学や地質学の研究、リサーチラボや最新機材を用いた震度計測等を行っている大学研究施設。耐震設計についての学生研究チームも有し、世界レベルの大学と肩を並べて様々な大会等で入賞、活躍しています。

参考資料として挙げている「建築物耐震性診断能力強化」の実施に向けた情報収集・整理業務にも関わられているAshleyさんとの出逢いは格別であり、我々が日本で行なっているプロジェクトをドミニカ共和国でも活用できないかと真剣に検討いただけることとなりました。

## Ministry of Education (教育省)



ドミニカ共和国の教育を支えている教育省の皆さん。  
防災教育の現状や人材開発についてお話を伺いました。

全ての政府機関や教育機関が防災教育を受けるべきであると考えており、関係者含めて教員や子どもも全員が受けるべきものと捉えておられました。制定しているガイドラインをベースに防災教育を浸透させ、教員も子どもたちと一緒に学べるコンテンツ開発及び教育体制の構築を目指して活動を続けている努力について伺いました。

## Ministry of Education (Supervisor of Infrastructure Civil and Building Engineer)



ドミニカ共和国教育省 インフラ担当土木建築技師ビクトルさんにお話を伺い、特に教育機関や学校に対する耐震基準についてお話を伺いました。

1万以上ある学校に対して全て耐震基準を満たしていくことがもちろん必要だが、コストと人材の問題から中々実現しない現状があるとこのと。補強工事を行うよりも新築した方が安価に済むことも計算されている。また学校には16種類以上の建築デザインがあり、耐震補強の課題となっていることや、重要性は十分理解している中で、推し進める難しさも経験されています。



市民の足になっているロープウェイから見下ろした街並みは、都市部の発展とは異なり、建築物の脆弱性が誰の目にも明らか。バリオとも呼ばれるその地域は、トタン屋根を使用していたり、急斜面に建てられていたり、その状況は様々でした。首都サントドミンゴの急速な経済発展に比例して貧富の差が拡大している状況を眼前にし、実情を伺い知ることが出来ました。万が一の災害時には建物の倒壊や地滑りの発生、増水による水没等被害は甚大になると考えられます。



JICA研修プログラムを通して日本へ渡り、日本の耐震基準や建築について学んできた研修員のアクションプラン発表会が実施されました。普段は違う省庁や大学で活躍されている方々が、同じ目標に向かって学びを深め、実際にドミニカ共和国に持ち帰られた様子を伺い知ることが出来ました。

耐震の評価基準策定や設計基準、建築技術等を深く理解され、その重要性をドミニカ共和国にも適応していきたいという熱意と、国民の理解を得ていくためには「教育」と「伝える」ことをやり続ける必要があることを力強く発表しておられました。

# ドミニカ共和国 防災の現状と課題

ドミニカ共和国が抱える災害リスクは、地震・津波・豪雨災害・洪水・ハリケーン等、同じ島国である日本と類似していると言えます。各省庁において防災・減災についての取り組みは行われているが、国全体が連携した取り組みとしては課題を残している。担当者の防災に対する想いは大きく、打開策を模索されていました。

## 各省庁は真摯に防災に取り組む

ドミニカ共和国では防災法や国家開発戦略、国家災害リスク軽減計画が策定されており、各省庁が防災・減災に向けて各々努力を重ねています。省庁間連携は課題となっているが、国家・自治体レベルで強く取り組んでいます。

## 情報連携と民間防衛

地震や災害リスクの調査・観測・研究が行われていると同時に、市民参加型の民官防衛も整備されており、災害対応に対する仕組みはしっかりと構築されている印象です。

## 耐震化に係る役割が異なる

MIVEDやONESVIE等、各省庁によって建築物の耐震化に係る役割が異なり、其々が独自の評価基準と調査体制を構築しています。省庁同士の横連携が急務と言えます。

## 防災人財・教育に課題

各省庁や政府レベルで防災教育の重要性を理解し、それを普及させるためのコンテンツ制作も行なっているが、中々「自分ごと」にさせるのが難しい現状があります。



# ドミニカ共和国の環境

---

環境KIDSエキスパートの調査

## INTEC



私立大学として、ドミニカ政府ならびに信託基金の支援を受けて研究・観測・リサーチ等を行なっています。

「価値のないものに価値付けをしていくことが重要」であると考えられている部分において、環境KIDSエキスパートとの親和性を実感し、また学生を巻き込みながら課題解決に向かわれている姿に感銘を受けました。

サルガッサムの研究も鋭意進められており、既にBIOプラスチック素材や液体肥料の開発に成功し、一部では収益化が開始されていました。

## Duquesa Landfill



ドミニカ共和国最大のオープンダンプ施設。

1日に約4000トンを超えるゴミが集まってきており、あと5年程度でキャパシティを超えることが想定されています。

持ち込まれたゴミの分別を担いながら、売れる素材を探す方々が多く集まり、ドミニカ共和国のゴミ処理に対する課題を目の当たりにしました。

今後JICAや政府の支援も入り、環境整備が行われていくということですが、この進捗については継続的にアップデートしていきたいと考えます。

## Juan Dolio Beech



サルガッサムが実際に漂着している様子を視察するために、Juan Dolioにあるビーチを訪れました。

時期的なこともありサルガッサムの漂着は見られませんでした。昨年環境KIDSエキスパートに参加した横浜の子どもたちをオンラインで繋ぎ、ビーチの様子やサルガッサムの漂着状況について簡易的なワークショップを開催しました。

中継というリアル感を子どもたちに提供できたことで、より一層理解が深まったと考えています。

## Instituto Politécnico Loyola



ロヨラ工科大学において、昨年環境KIDSエキスパートで使用した「ゴミ問題」をテーマにした教材を元にワークショップを開催しました。

小さな子どもから大学生まで、幅広い年齢層が参加したワークショップ。皆さんとても明るく、前向きかつ真剣に参加してくださり、大変活発な意見とアイデアの創出を行なってくれました。

自国の課題を認識し、理解し、行動を変えていく重要性を少しでも感じてもらえるプログラムになっていれればと願います。

# ドミニカ共和国 環境問題の現状と 課題

昨年環境KIDSエキスパートで取り扱ったサルガッサム問題とゴミ処理に関する問題について、実際に現地に赴き、たくさんの方々からお話を伺い、また日本と同様のワークショップを実施しました。教育を通じた子どもたちの意識改革によって、問題の根本解決に寄与して行きたいと考えます。

## オープンダンピング施設

分別されることなく収集されたゴミが国内にあるオープンダンピング施設に集積され、それを起因とした深刻な環境問題を引き起こしています。

## ゴミ回収とリサイクル

分別やリサイクルの概念は浸透しつつあり、大学校内や商業施設内においても分別式ゴミ箱が設置されているが、行き着く先が同じであるという課題も残ります。

## サルガッサムの漂着

季節によりサルガッサムが漂着し、観光ビジネスや漁業に大きく影響を及ぼしています。サルガッサムを活用する方法については各分野で研究が推進されています。

## 温暖化と豪雨被害

地球温暖化の影響を受けて、サルガッサムの漂着や豪雨災害等が多く報告されています。環境問題と防災・減災は関わりがあることであると言えます。



# ドミニカ共和国でのテレビ出演

---

メディアを活用した情報伝達

## RNN Channel 27



ニカラグアに引き続き、ドミニカ共和国でもテレビ番組に出演させていただきました。

ニカラグアとはまた雰囲気も違い、オールグリーンバックのスタジオの中にインタビューアーが2名体制、ドミニカ共和国教育省が持つ番組でした。

教育省の方ということもあり、質問の内容も日本の教育方法や子どもへのアプローチにフォーカスが当てられており、同じく出演いただいた井上先生と共に真摯に、真剣にお答えをさせていただきました。

ドミニカ共和国においても子どもへの教育に注力していきたいというお話もいただき、大変意義深い議論をさせていただきました。

番組内ではArtist in Projectについて、防災の取組みやドミニカ共和国での活動、環境KIDSエキスパート事業についてお話をさせていただき、JICAのPRも同時に行うことができました。

番組収録後にはスタジオサブにもお邪魔させていただき、ドミニカ共和国での番組収録や放送方法についても教えていただき、メディアに携わる一人として学びの深い経験となりました。

# ドミニカ共和国の歴史と魅力

---

ドミニカ共和国の魅力を日本に伝える

## ZONA COLONIAL



ドミニカ共和国旧市街を探索しました。

コロンブス像や中米地域で最古の教会など、歴史的な空気にも触れることができます。

強い日差しと暑さは中米カリブの特徴として観光にはそれも良い刺激となりました。

ドミニカ共和国の郷土料理にも舌鼓を打ちながら、サントドミンゴの地ビールも楽しめる。

多種多様なお土産物が立ち並ぶマーケットや緑あふれる公園、真っ青な空の下ドミニカ共和国の魅力を存分に味わうことが出来ました。

## HIROSHIMA TOYO CARP Baseball Academy



地球の裏側ドミニカ共和国で故郷広島を感じる。

1990年に日本球界初となるアカデミーをドミニカ共和国に開設した我らが広島東洋カープ。

30年を超える尽力が両国有効の証とも言えるでしょう。

遠い地で頑張っている球団職員の皆さん

日本球界入りを目指して日々練習に励む選手の皆さん

野球だけでなく日本の文化や習慣、礼儀までも教えるコーチの皆さん

施設管理や清掃・洗濯等選手を支えるスタッフの皆さん

沢山の力が合わさって、素晴らしい選手が輩出されている。

熾烈な競争を勝ち抜いて球団入りする選手たちと

それを支える全ての皆さんに心からの尊敬とエールを。

我らがカープ、すごいぞカープ。



## 国策ドミニカ日本人農業移住の歴史



日本の国策として開始されたドミニカ共和国移民政策。  
60年以上前に移住し、様々なご苦労を経験された嶽釜さん、  
瀬藤さんご夫妻に直接お会いし、お話を伺いました。

JICAボランティアである青木さんがまとめた資料も拝読し、当時の様子や裁判の記録に至るまでを知ることが出来ました。  
嶽釜さんが発せられる言葉のひとつひとつが深く心に刺さり、日本人としてのアイデンティティや誇りを見直すキッカケとなりました。

「今の日本の教育はどこか間違っている」

その言葉は大変重く、教育に携わる一人として真摯に向き合うべきであると思います。

また日本の若い世代に対して、「ご両親を尊敬なさい。そして先生の言うことをしっかり聞いて、しっかり努めなさい」という温かくも厳しいお言葉を頂戴しました。

私たち大人がしっかりと子どもと向き合い、日本の未来を創っていく必要があると確信しました。

## 調査団派遣を通して・・・

本派遣を通して、昨年環境KIDSエキスパートで取り扱った環境課題について自ら体感することが出来ました。日本国内でどれだけ社会課題に関する映像や資料を見聞きしても、どうも「自分ごと」にならない。それは大人も子どもも一緒ではないかと思います。自分ごとにならない課題は、その人にとっては課題ではない。人の痛みは100年でも我慢できるとはよく言ったものです。この問題に真正面から向き合い、日本から、そして子どもから世界の課題を考えてこうという本取り組みの意義は大変深いと思います。

また同時に進むArtist in Project。

アートやメディアをうまく活用し、人々が関心を持つキッカケを創出していく。キッカケさえ作ってしまえば、醸成できる。そんな想いが込められ、様々なアーティストさんのご協力を得ながら突き進むJICAの姿勢にも感銘を受けています。これまでやっていない事にチャレンジしていかなければ、新しい未来を切り拓くことは出来ないことがよく分かりました。

国際協力や世界課題について興味関心が薄れている現代にあって、何らかの形で「自分ごと」にしていただける機会を創出していくことが我々大人の責任であり、地球に住む全ての人々の責任であると考えます。

それは防災にも共通します。

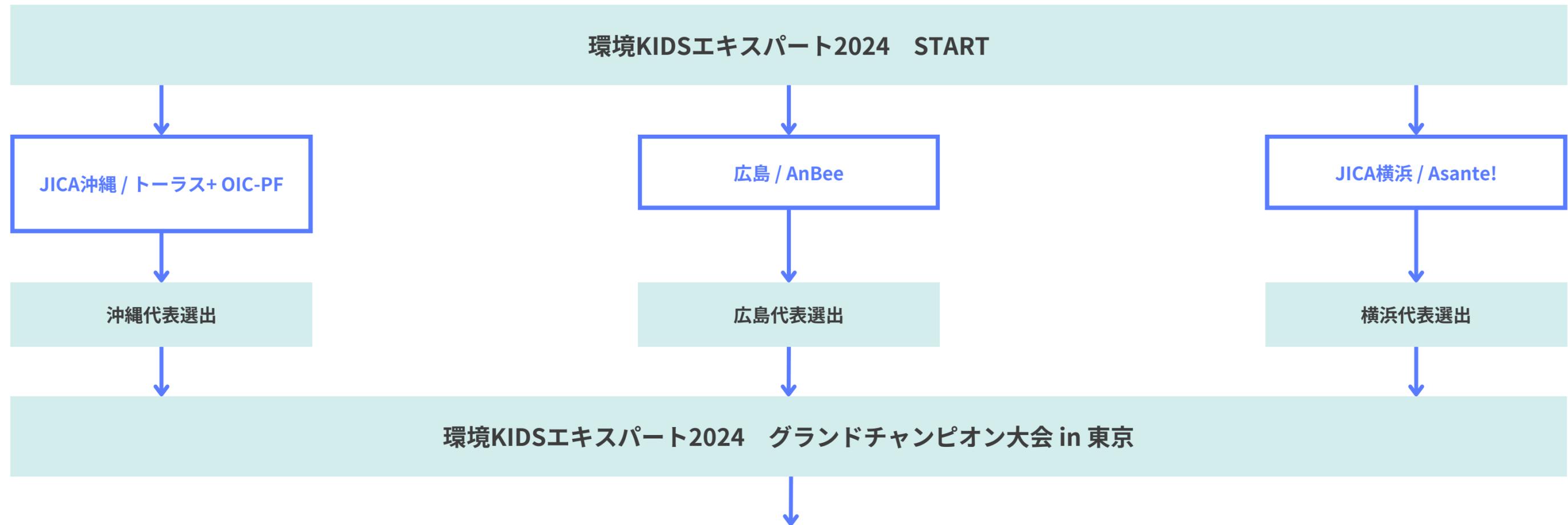
それぞれが大切な生命と財産を守り抜くためには、どうしても「自分ごと」にさせていく必要がある。それは日本だけでなく、今回訪れたニカラグアやドミニカ共和国も同じでした。同じ課題を持つ者として、互いに共有し、手を繋ぎ、より良い未来に向かって協力していきたい。そう、切に願います。

このプロジェクトに参画させていただく機会をいただき、心から感謝を申し上げます。経験を活かし、日本の子どもたちを巻き込んで国際協力の新しいカタチを模索していきたいと願っています。

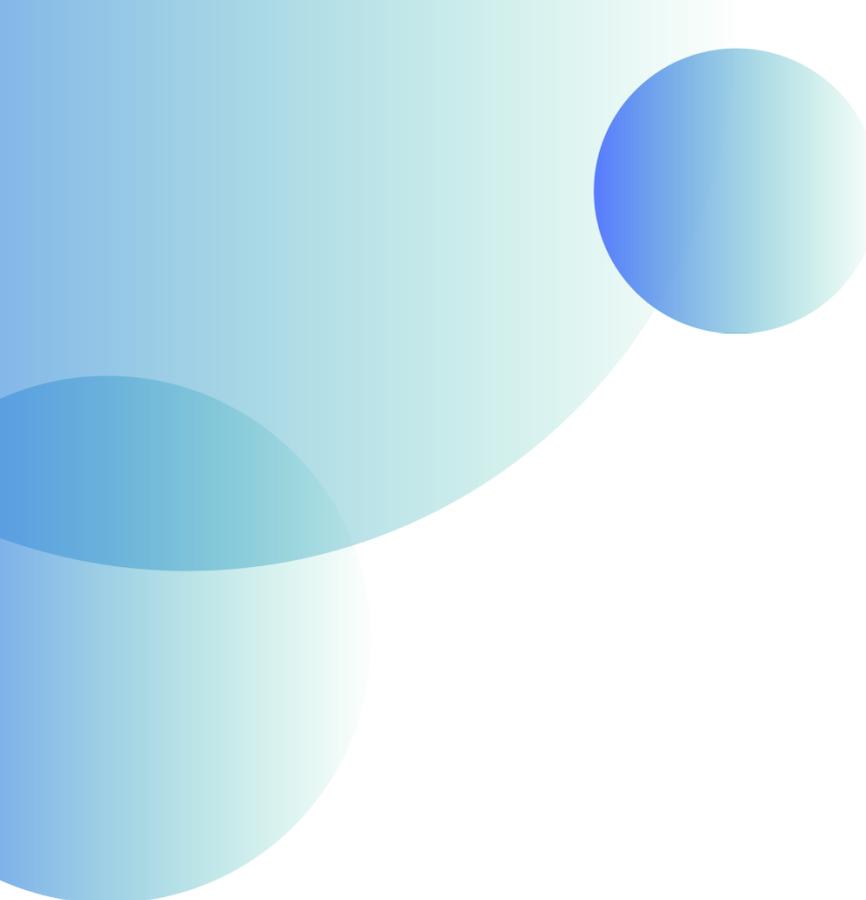
# 帰国後の展開

## 昨年環境KIDS+海外経験

昨年環境KIDSエキスパート並びに本派遣を通して学んだ経験を活かし、今年度プロジェクトを推進して参ります。  
日本の子どもたちにドミニカ共和国の「リアル」を出来る限り詳細にお伝えし、子どもたちの想像力・創造力を掻き立てます。



2024年企画を通して、本企画をどのように将来に向けて展開していくのか？について、チーム内外を問わず議論したいと考えます。  
始まった素晴らしい企画を未来に繋いでいけるよう、努力を重ねたいと思います。



# Muchas Gracias

JICAの皆さんに心からの感謝を申し上げます。  
この派遣で学んだこと、感じたことを今後の活動に活かして参ります。  
またご一緒きることを楽しみにしております。

AnBee株式会社  
和泉 崇司

